

平成 26 年(2014 年)11 月 11 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校
校長 濱野 裕民

平成 26 年度(2014 年度)全国学力・学習状況調査の結果について

紅葉の候、保護者のみなさまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育活動にご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、4月22日に実施致しました6年の「全国学力・学習状況調査」結果の分析を行いました。学力調査の結果は、国語・算数とも全国平均より上回っており、次のような特徴が見られました。

- ・全体的に基本的な知識が定着できていた。
- ・記述して解答する問題においては、全国平均を大きく上回る正答率であった。
- ・文章や情報を読み取り、論理的に思考する問題においては、国の状況と同じく課題が見られた。
- ・学習状況調査の結果からは、家庭環境や学習習慣、コミュニケーションでよい傾向が見られた。
- ・将来自分のめざす人物像に対して、全員が肯定的意見をもっていた。
- ・自己肯定感に関して、自分のよさを感じる傾向がみられた。

見えてきました課題の解決に向けて、校内でそれらを共有し、学校として改善に向けて取り組みを進めてまいります。課題解決には、家庭との連携なくして成果を上げることができません。以下に、本校の特徴から見えてきた<さらに伸ばしたい点>と<今後の取り組み>をまとめましたので、ご協力の程よろしくお願い致します。

なお、豊能町教育委員会による町全体の分析結果は、本町のHPにて公表されます。全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所のHPで公表されています。それぞれご覧ください。

1. 学力調査の結果より

国語

[A問題より]

- ・無回答がほぼなく、全体的によくできていた。
- ・漢字の読みで若干読み違いはあったが、よくできていた。
- ・故事成語の使い方に課題が見られた。
- ・資料の読み取りや捉え方に課題が見られた。

[B問題より]

- ・無回答が「国語A」に比べるとややあったが、全体的にできていた。
- ・質問の意図を正確に捉えながら問題を解くことに課題が見られた。
- ・文章を読んでわかったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめることができた。
- ・2つの詩を読み比べ、表現の工夫を捉えることができていた。
- ・最後まで問題に取り組もうという姿勢が見られたが、時間が足りない児童も見られた。

算数

[A問題より]

- ・四則計算はよくできていた。四則混合計算での混乱が見られた。
- ・5年生の学習内容にかかわる問題（単位あたりの大きさ、円周を求める、作図に用いられる図形の約束や性質）では、全国平均を上回ったが、数量や図形についての理解の定着がまだうすい傾向が見られた。

[B問題より]

- ・「記述式」問題では、全国平均を大きく上回る問題があった。書く努力は、よく見られたが、説明が不十分で正答に至らなかったものもあった。
- ・「量と測定」問題の示された場面で（比較量÷基準量＝倍）を理解していたが、単位や計算などの単純ミスがあった。示された情報を基に、条件に合う時間を求めることでは、全国平均を下回った。

国語・算数の結果を踏まえ、

<さらに伸ばしていきたい点>

- ◎複数の文章や資料から必要な情報を読み取り、論理的に説明する力をつけること。
- ◎学習内容を日常生活の中で活用する力をつけること。
- ◎筋道を立てて、考え方や求め方、理由を式や言葉で表現する力をつけること。

<今後の取り組み>

※算数・国語を中心に全教科・全学年において、横断的・系統的に指導していきます。

- ・事実・理由を根拠に、自分の意見を書いたりまとめたりする学習を充実させる。
- ・自分の考えを持ち、ペアやグループ（班）で意見交流する場面を充実させ、複数の視点から物事を考える場面をつくる。
- ・文章の構造や大事な言葉に注目し、内容を読み取る力をつける。
- ・図・表などを手がかりに複数の情報を比較したり判断したりする力をつける。

知識の定着

- ・漢字・基礎計算は、漢字テストや2分間計算等で引き続き定着を図る。
- ・授業の中で実生活に結びつく知識となるよう、操作活動や経験を大事にする。

2. 学習状況調査の結果より

子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識を調査したもので、次のような特徴が見られました。

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に、100%の子どもが肯定的な回答をしました。朝食の摂取と学力、運動能力の間に相関関係が認められ、朝食の大切さが実証されているなか、全ての家庭でしっかり朝食を摂取できていることは素晴らしいことです。また、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」という質問に対しても、肯定的な回答の割合が非常に高く、家庭で十分にコミュニケーションがとれていることがわかります。
- 家庭学習に関する質問、「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で学校の授業の復習をしていますか」に対しては、どちらも肯定的な回答の割合が高い結果でした。また、家庭学習の時間を問う「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」に対して、1時間以上と回答した割合が8割を超えていました。また、「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に、100%の子どもが肯定的な回答をしました。これらのことから、子どもたちが家庭でも意欲的に学習に取り組んでいること、さらに、与えられた課題だけではなく、自ら必要な学習に進んで取り組んでいることがわかります。
- 「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して、100%の子どもが肯定的な回答をしました。子どもたちがそれぞれめざす人物像をもっていることがうかがえます。いじめ問題や人と人とのつながりの希薄化がクローズアップされているなか、このように相手の気持ちを考えるという視点に立とうとしていることは素晴らしいことです。この意識の高さをさらに行動につなげていくことが大切です。
- 「今回、国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」、「今回、算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」に対し、全ての書く問題で解答を書こうと努力したという回答の割合が非常に高い結果でした。与えられた課題に一生懸命取り組もうとする姿勢がうかがえます。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答

の割合は低い結果でした。子どもの自信、意欲、確かな自我を育むためには、自尊感情や自己肯定感は欠かせないものであり、学校と家庭が協力して子どもたちの自尊感情、自己肯定感を高める必要があるといえます。

- 『『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』、「5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか』に対する肯定的な回答の割合は低い結果でした。『総合的な学習の時間』や『調べ学習』において、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力をより一層育てていく必要があるといえます。

以上より、本校は、次のような<良好な点>と<さらに伸ばしていきたい点>が見えてきました。

<良好な点>

- ◎家庭で落ち着いた生活を送り、家族とコミュニケーションを十分にとれていること。
- ◎家庭学習で意欲的に取り組んでいること。
- ◎相手の気持ちを考えようという意識。
- ◎目の前の課題に一生懸命に取り組もうとする姿勢。

<さらに伸ばしていきたい点>

- ◎自分のよさを認め、自信を持って行動する態度。
- ◎自ら課題を見つけ、情報を集め整理して、調べたり発表したりする力。

そこで、次の点を大切に、今後取り組みを進めていきます。

<今後の取り組み>

- ・子どもたちに達成感を味わう体験を多く設け、子どもたちのがんばりやよさを積極的に認める。
- ・学ぶ意欲を持つことができ、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりをする。
- ・全教科・全学年において、横断的・系統的な学習に取り組む。